令和7年度 厚生労働科学研究費
長時間労働の医師への健康確保措置に関するマニュアル改訂のための研究
分担研究報告書

日本人医師における離職意向およびバーンアウトに関連する要因についての横断研究

研究分担者　井上雄一　神経研究所

研究要旨:本研究は、日本人医師における離職意向およびバーンアウトに関連する要因を明らかにすることを目的とした。2024 年 3 月に、週 30 時間超勤務する医師 1,535 名を対象に横断的オンライン調査を実施されており、今般の研究ではそのデータを用い、労働時間、意味を感じる業務への従事割合、専門職充実感、バーンアウト、抑うつ症状等を分析し評価した。離職意向は 28.0%に認められ、大学病院勤務、バーンアウト、抑うつ症状と関連し、診療所勤務、初期研修医、専門職充実感は低い離職意向と関連した。バーンアウトは、意味ある業務への従事時間が少ないこと、抑うつ症状と関連し、専門職充実感は保護的に作用した。労働時間は全体では離職意向・バーンアウトと有意に関連しなかったが、一般病院では長時間労働がバーンアウトと関連した。医師の精神的健康を保つ上では、長時間労働対策に加えて、心理的健康の支援と専門職としての充実感を高める職場環境の構築の必要性が示唆された
。

A. 研究目的

本研究は、日本人医師における離職意向およびバーンアウトに関連する要因を検討することを目的とした。医師のバーンアウトは医療安全や医療提供体制に影響しうる重要な課題であり【文献 1】、長時間労働や過労死・過労自殺も日本の医師における重大な職業上の問題として指摘されている【文献 2】。本研究では、長時間労働が主要因であるのか、あるいは専門職充実感、自己にとって意味のある業務への従事、抑うつ症状などの心理・職務関連要因がより重要であるのかを明らかにすることを目指した。

B. 研究方法

2024 年 3 月に、日本人医師を対象とした横断的オンライン調査が実施されており、今般、そのデータを用いて解析を行った。解析対象は、週 30 時間を超えて一般病院、診療所、大学病院に勤務する医師 1,535 名であった。調査項目には、基本属性、勤務施設、職位、週労働時間、最も意味があると感じる業務とその従事割合、離職意向、Professional Ful-

fillment Index（PFI）による専門職充実感およびバーンアウト【文献 3】、Patient Health Questionnaire-9（PHQ-9）による抑うつ症状【文献 4】を含めた。離職意向に関連する要因は多変量ロジスティック回帰分析、バーンアウトに関連する要因は重回帰分析により検討した。

（倫理面への配慮）

本研究は公益財団法人神経研究所倫理委員会の承認を受けて実施された。参加者には研究目的、データの取り扱い、匿名性、参加の任意性、撤回の権利をオンライン上で説明し、同意を得た上で調査を行った。

Ｃ．研究結果

対象者の平均年齢は 44.4 歳、男性が 83.5%であった。9.7%が週 80 時間を超えて勤務しており、大学病院勤務医でその割合が最も高かった。離職意向は 28.0%に認められた。全体の解析では、大学病院勤務、バーンアウト、抑うつ症状が離職意向の高さと有意に関連し、診療所勤務、初期研修医であること、専門職への充実感は離職意向の低さと関連した。一方、週あたりの労働時間は全体では離職意向と有意に関連しなかった。バーンアウトについては、最も意味があると感じる業務への従事時間が 20%未満であること、および抑うつ症状が高いバーンアウト水準と関連した。高年齢、診療所勤務、初期・後期研修医、専門職への充実感はバーンアウトの低さと関連した。週あたりの労働時間は全体ではバーンアウトと有意に関連しなかったが、一般病院では長時間労働が高いバーンアウトと関連した。

Ｄ．考察

本研究では、長時間労働のみでは医師の離職意向やバーンアウトを十分に説明できない可能性が示された。特に、専門職の充実感は離職意向およびバーンアウトの双方に対する保護的要因であり、意味のある業務に十分従事できないことはバーンアウトと関連していた。これは、医師のウェルビーイングを考える上で、労働時間の短縮だけでなく、本人が価値を感じる業務に関与できる環境整備が重要であることを示唆する【文献 5】。また、抑うつ症状は離職意向とバーンアウトの双方に関連しており、医師のメンタルヘルス支援、とくに援助希求に伴うスティグマを軽減する仕組みが必要である。なお、本研究は横断研究であり、今後の縦断調査による因果関係の検討が望まれる。

Ｅ．結論

日本人医師における離職意向およびバーンアウトには、労働時間だけでなく、専門職充実感、意味のある業務への従事、抑うつ症状が重要に関連していた。医師の精神的健康を保つ上では、長時間労働

対策に加えて、心理的健康の支援と専門職としての充実感を高める職場環境の構築がの必要性が示唆された

。

引用文献

1.Prevalence of Burnout Among Physicians: A Systematic Review. Rotenstein LS, Torre M, Ramos MA, et al. *JAMA.* 2018;320:1131-1150.

2.New occupational threats to Japanese physicians: karoshi (death due to overwork) and karojisatsu (suicide due to overwork). Hiyama T, Yoshihara M. *Occup Environ Med.* 2008;65:428-429.

3.A Brief Instrument to Assess Both Burnout and Professional Fulfillment in Physicians: Reliability and Validity, Including Correlation with Self-Reported Medical Errors, in a Sample of Resident and Practicing Physicians. Trockel M, Bohman B, Lesure E, et al. *Acad Psychiatry.* 2018;42:11-24.

4.The PHQ-9: validity of a brief depression severity measure. Kroenke K, Spitzer RL, Williams JB. *J Gen Intern Med.* 2001;16:606-613.

5.Career fit and burnout among academic faculty. Shanafelt TD, West CP, Sloan JA, et al. *Arch Intern Med.* 2009;169:990-995.

F. 研究発表

１．論文発表

現在投稿中

２．学会発表

なし

G. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）

該当せず。

H. 文献